「2013年度合格祝賀会」

司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験

司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験の難関を突破した合格者をたたえる「2013年度合格祝賀会」が12月17日、神田キャンパスで華やかに開催された。

今年度は司法試験9人、公認会計士試験11人、国家公務員採用総合職試験1人の合わせて21人が合格。祝賀会には、司法修習や所用のため欠席した9人を除く12人が出席し、矢野建一学長や日髙義博理事長をはじめゼミの指導教員、育友会、校友会関係者らの祝福を受けた。

矢野学長は「私は文学部出身で国家試験にはあまり縁がないが」と前置きした上で、友人の考古学者を紹介。「人のやらないこと、嫌がることを地道に研究し功績を残している。みなさんも独自の得意技をつくって一層の精進を」と激励した。

続いてあいさつに立った日髙理事長は、資格試験を「四角い試験」だと解説。「まず要求された形をこなし、難関をくぐったら丸でも三角でも依頼人に応じて変幻自在にやるしかない。どんな形でも結構、自分の生き方に合った専門家になっていただきたい」とはなむけの言葉を贈った。

水﨑保男校友会総務部長の音頭で乾杯し、瀬在義夫育友会長も祝福。合格者には専修大学と育友会、校友会職域支部の法曹会、会計人会からそれぞれ記念品が贈呈された。

最後に、公認会計士試験に合格した宮田英嗣さん（商4）が代表として謝辞を述べ、「会計士は日本経済発展を担う職業。試練こそ自分を成長させると信じ精いっぱい精進していきたい」と結んだ。

公認会計士試験に現役で合格した5人には、今年度新設された校友会奨励賞が贈られた。

▶ 矢野学長から記念品が贈られた

矢野学長「得意技つくり精進を」

13年度公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験合格者

※新司法試験合格者は第517号（10月号）に掲載（カッコ内は在学・卒業年学部、所属ゼミ、出身校）

◆公認会計士試験

山本竜矢さん（経済3、静岡県沼津東高）
小野勝也さん（商3、千葉県船橋西高）
宮田英嗣さん（商4、安藤英義ゼミ、香川県高松商業高）
神保将輝さん（商4、奥村輝夫ゼミ、東京都調布北高）
小林貴之さん（商4、建部宏明ゼミ、神奈川県厚木東高）
遠藤大介さん（平25商、東京都専大附属高）
野呂幸矢さん（平22経済、千葉県八千代松陰高）
大島祐輔さん（平21商、岐阜県恵那高）
高野晃徳さん（平20経済、西村弘ゼミ、長野県屋代高）
田上真梨子さん（平19経済、東京都専大附属高）

◆国家公務員採用総合職試験【大卒程度試験】

高山直仁さん（平22経営、山梨県都留高）

公認会計士

講義の取り方を工夫

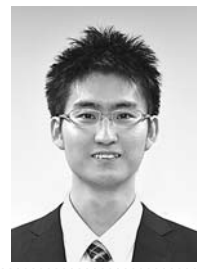
山本竜矢さん（経済3）

入学を機に、新たなチャレンジをしようと、会計士講座を受講しました。大学で初めて会計学や簿記に取り組みましたが、講座は初心者にも分かりやすく、合格に向けた力になりました。

試験勉強では、講義の取り方を工夫するなど、まとまった時間を確保するようにしていました。また、計画的に休みを入れ、時には友人と遊びに出かけるなど、メリハリをつけることを心掛けました。成績が上がらず、最後まで不安は拭えませんでしたが、諦めずに頑張る気持ちが大切だと感じました。

勉強法を見習い自信

小野勝也さん（商3）



専門性が高く信頼される職業に就くのが夢だったので、「計理の専大」に入学した時から3年次での合格を目指しました。

会計士講座の奨励生（※）として専門学校に通い始めると、周りは有名大学の学生ばかり。同じ時間勉強しているのに成績に差が出ます。なぜなのか。結論は「自分ができないのではない。勉強方法が違う」。

問題集を解くばかりでなくテキストを熟読するようにしたら、苦手科目の理解が進みました。重要なのは、自信を失わず前向きに問題点を解決すること。ゲーム解禁です。

友人との交流も大切

宮田英嗣さん（商4）

全力で試験勉強に取り組みましたが、それが全てではない。授業も怠らなかったし、友人との交流も大切にしました。試験勉強も大学生活も一生懸命やり遂げた――それが誇りです。将来は国際感覚を持った会計士を目指します。

試験勉強では時間の有効活用を考え、短時間の中で何ができるかを常に頭に置いていました。合格の秘訣は、そんなところでしょうか。

親のいうことを聞かない子どもでしたが、会計士講座の奨励生になって、在学中に難関を突破できました。少しは親孝行ができたかな、と思っています。

現役合格者

運動でリフレッシュ

神保将輝さん（商4）

会計の専門学校通学、アメリカへの短期留学と両親にすごく負担をかけたので、絶対に在学中に合格しようと思いました。

はじめは一日約13時間勉強していましたが、段々気持ちが落ち込んでしまいました。一緒に留学した人の中には過年度の合格者や合否の結果待ちの人も多く、勉強法を相談できたのが大きかった。

息抜きも大事。生田キャンパスのジムで筋トレしたりプールで泳いだりすると、勉強に集中できる。「条文をしっかり理解すること」というアドバイスも役立ちました。

苦手科目を作らない

小林貴之さん（商4）

高校時代から公認会計士を目指し、合格に向けて手厚いバックアップで定評がある専大に入学しました。

苦手な科目を作らないよう、バランスよく学ぶことを心がけました。私の場合、苦手は財務会計、この攻略に時間を注いだことが合格へのポイントだと思っています。「やる時はやる。休む時は休む」というメリハリも大事。

奨励生になれたことや大学からの補助やアドバイスも励みになりました。ゼミの建部宏明先生に合格を報告すると、「本当のスタートはこれから」と肩をたたかれました。

計修会も祝賀会

計修会（専修大学公認会計士試験研究室）主催の公認会計士試験合格祝賀会が12月14日、神田キャンパス近くの会場で50人が参加して開かれた＝写真。本年度は計修会室員から、小野勝也さんと山本竜矢さんの二人（いずれも3年次）が合格した。

当日は、計修会室長でもある佐々木重人商学部長、内野明前商学部長、会計士として活躍しているOBに加え、エクステンションセンター主催の「会計士講座」でご指導をいただいている平澤哲先生ほか、日ごろお世話になっている先生方二人も駆けつけ、「現役合格10人を目指そう」とお祝いの言葉をいただいた。

計修会は、身近に合格者に接することで競い合い、励まし合って同じ目標に挑戦する仲間が集う場であり、そこで鍛えられたコミュニケーション能力は、社会人基礎力の向上や卒業後の連携強化にも役立っている。

また計修会のメンバーは、全国大学対抗簿記大会にも積極的に参加し、2013年秋季大会の団体戦2級の部で、全国優勝した。

※奨励生制度　本学の会計士講座を熱心に受講し、学習の進捗が著しく、現役で公認会計士試験に合格しようと熱意を持つ受講生を選抜し、2年目の「基礎講座」の受講に替えて大原学園の上級カリキュラムの受講を課す制度。

初代総長・阪谷芳郎関係書簡集

図書館所蔵の未発表1365通　専修大学編

関東大震災の翌年に専修大学第2代学長に就任し、後に初代総長を務めた阪谷芳郎（1863～1941）の生誕から150年。大蔵大臣や東京市長を歴任し、政財界や教育界に多彩な人脈を築いた阪谷に送られた本学所蔵の未発表の書簡類が、節目の年に1冊にまとめられた。

阪谷は1884（明17）年に東京大学を卒業し大蔵省に入省。専大との縁はその2年後に生まれ、東大で専大創立者の一人、田尻稲次郎から理財学を学んだ縁で、官僚生活の傍ら1889年まで講師として教壇に立った。

頭脳明晰で高潔な人柄は近代日本実業の父、渋沢栄一の目に留まったことからもうかがえる。26歳で渋沢の次女と結婚し、43歳で大蔵大臣、49歳で東京市長になるなど政財界で幅広く活躍。初代学長・相馬永胤の死去により、震災で校舎を焼失し財政難に陥った専大のかじ取りを託されたのは61歳の時だ。

書簡類は本学図書館が1963年に古書店から購入。簡易目録を作成して大方の利用に供してきたが、本資料が日本近現代史研究や大学史編纂に大きく寄与できるものだけに、各方面からより詳細な目録作成と翻刻刊行が望まれていた。

こうした声に応え、2008年、図書館に学内外の歴史研究者からなる「アドバイザー会議」を設けるなど、組織的な取り組みが開始された。09年に資料の保存と利用を考えマイクロ化を完了させ、同年『阪谷芳郎関係書簡目録』を刊行。続いて本書の刊行に向け、整理、解読に専門家の協力を得ながら、図書館で編集作業が進められてきた。

翻刻された書簡は、大蔵省に入省してから亡くなるまでの57年間に阪谷に宛てられた1365通。差出人は明治から昭和にかけ政治、経済、教育などの分野で功績を残した420人あまりで、名だたる人物がひしめく。

口絵には阪谷本人をはじめ、高橋是清や嘉納治五郎、渋沢など10人の書状の写真も。筆跡に性格が見て取れ、興味深い。

昨年7月に逝去した青木美智男元文学部教授が「刊行にあたって」と一文を寄せている。（芙蓉書房出版・本体1万1500円＋税）